

教材活用シリーズ 第 166 回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

「読んでも意味がわからない」を解決

(株)正進社
『読み方レスキュー』
(グレード I～III)



(株)正進社
中学編集部 国語科

『読み方レスキュー』は、「書かれていることを正しく読み取る」力を育てることを目指した教材です。難度に応じて、グレード I～III の三冊をご用意。グレード I・II では、一文一文の意味を正しくとらえるためのトレーニングをします。グレード III ではより長く複雑な文章を読み、ある程度のまとまりで意味や内容を適切にとらえるための練習ができます。

1. 開発の経緯

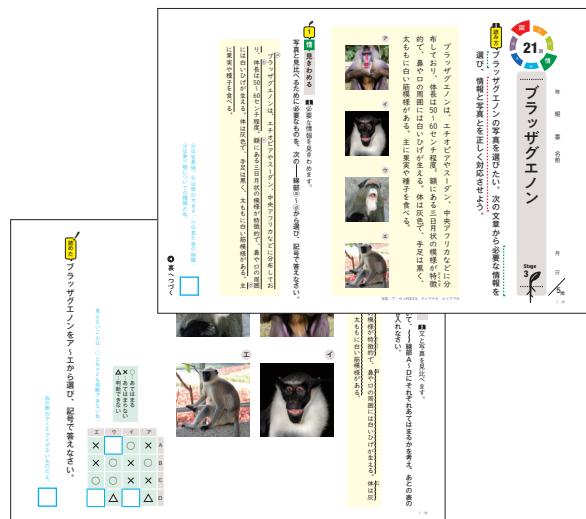
「教科の学力以前に、問題で聞かれているこ

との意味がわからなくて答えられない生徒もいる」「最近の子どもは少し長い文章になると、途中で読めなくなってしまう」。以前より、教科を問わず先生方からこのような声をいただいております。折しも『A I v s. 教科書が読めない子どもたち』（新井紀子著）のなかで、教科書に書いてあることの意味を理解できない中高生は少なくないという実態が紹介されました。こうした状況を受けて、「意味を正しく理解する」ための方法論を学び、正しく読む力を習得するための本教材が生まれたのです。

2. 特長

〈グレード I・II〉

「書いてあることの意味がわからない」となる原因を探り、一文一文を正しく読むために必要な力を七つに整理しました。一回につき二つの力を取り上げ、読む力をこつこつ育てます。また、読むこと自体に苦手意識をもつ子どもたちが取り組みやすいものとするため、次の三つの工夫を凝らしました。



▲グレード I 誌面

① スモールステップ

問一から順を追って問題を解けば、自然と「読めた」につながります。「正しい読み方」が体験的に身につくしくみとなっています。

② 豊富な題材

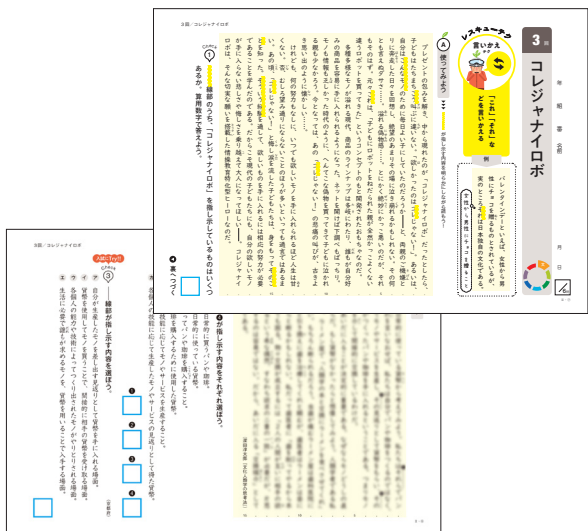
子どもたちの好奇心をくすぐったり、教養を

深めたりする題材を揃えました。英数理社の問題文の読み方の練習もできます。こうした豊富な題材で、子どもたちの読みたい気持ちを引き出します。

③一回七分
短時間で効率よく「読む力」を育てます。国語の授業の帯学習や朝学習での使用に適しています。

〈グレードⅢ〉

グレードⅠ・Ⅱで培った七つの力を効果的に運用するために、文章の理解を促進する六つのワザ(Ⅱテク)を提示。長い文章を「読んでわかる」ためのテクを習得します。読む力を身につけた子どもたちの実践力を高めるため、次の三つのしかけを設けました。



▲グレードⅢ誌面

①題材がおもしろい

各回のオモテ面には、思わず読みたくなる題材を厳選しました。「おもしろい」と思う気持ちだが、学習効果を高めます。

②毎回入試で実践練習

各回のウラ面は、すべて入試に出題された文章。入試にも通じる実践力を育てます。

③リアルな場面×読解

「読む力」はあらゆる学びの土台です。特集回「リア読」(全八回)では、英数理社の問題文、契約書、SNSなど、実生活で出会う文章を題材に、生きる読解力を育みます。

3. 使い方のご紹介

〈使用場面〉

①朝学習

一週間のうち一日を、本教材の使用に充てます。一冊につき三十二回なので、一年で一冊が終わります。バラプリントをご採用いただくと、生徒が教材を忘れることもありません。無理なく着実に「読む力」を育て、全教科・全学年の学力の底上げを図ることができます。

②国語の授業

授業の初めの五十分程度で実施。間違えた生徒の多い問題は、すぐに先生による解説ができます。帯学習に取り入れて毎時間楽しく授業を始めていただいたり、学期末の調整時間にお使いいただいたりできます。

〈効果的な使い方〉

正解した問題を集計するためのチェック

シート(「読み方レスキュー」特設サイトに掲載)を使って、

生徒毎に自身の得意・不得意の傾向をつかませます。先生はクラス単位で弱いところを把握すれば、授業のなかで、教科書の該当する記述をより丁寧に確認することができます。例えば、文章と図表を照らしあわせて理解することが苦手な生徒の多いクラスでは、表やグラフが出てきたときに、文章に対応する部分を細かく示すというような対応が考えられます。このように、そのクラス毎の弱点に手当てする準備に本教材を役立てていただければ、より効果が高まります。

▲チェックシート

4. おわりに

本教材では、正しく意味を理解するための方法論を示してありますが、それを身につけるには練習量が求められます。この教材の問題を解くだけではなく、意味のわかりづらい文に出会ったときに本教材の考え方をを用いる等、ふだんの言語活動に生かしていただき、より確かな「読む力」を育てるきっかけとなれば幸いです。